

## 社会教育委員の管外研修報告（水平社博物館・なら歴史芸術文化村）から

◎今年度の管外研修は、人権意識の更なる向上と社会教育の推進を図ることを目的として実施し、学びや気づきが大変多い有意義な研修であった。

人権のふるさと水平社博物館周辺の水平社ゆかりの史跡、特に西光寺や西光万吉の生い立ち、つばめ会の青年たちの部落解放に向けた熱い思いが伝わるガイドさんの話が心に残った。館内は水平社創立の歴史展示で、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」対等で平等な人間関係を追求する創立理念や「人間は互いに尊敬し合うべきものだ」との宣言は被差別当事者による世界初の人権宣言である事がよく理解できた。掲示の「みんながって、みんないい」「もっと暖かい人の世を」などのことばには私も共感する。多様な人々が共に生きる寛容な社会を目指し、これからも人権感覚をみがき、心豊かに暮らしていきたいと思った。

なら歴史芸術文化村は、歴史、芸術、食と農など奈良県の誇る文化に触れ体験できる施設で、文化財修復・展示棟が大変興味深く見学でき、細かい作業の様子がよくわかった。時間があればもっと見学や体験したいと思う楽しい施設だった。

管外研修で学んだ事を社会教育委員として、精華町がさらにすばらしい町になるように実践していきたい。

◎10月12日に御所市の水平社博物館へ。天気にもめぐまれ、そこそこに彼岸花も咲いて。

まず、フィールドワークで案内人の方に、昔の町の暮らしなどの話を聞きました。死んだ牛などの皮や骨など、骨はニカワにして、今でいう接着剤だそうです。需要も多く、収入が良かったそうです。その為、上の学校へ行ける人もありました。でも出身地を聞かれたり、わかったり、学校を続ける事も難しかったそうで、そんな人達が差別に対する憤まんから、水平社を設立し、人権差別を無くす運動が、またたく間に大きなうねりとなって、全国へ波及した事、小学校の校長先生からも長く差別があった事など、今後もまだ脈々とその思いを伝えていくと案内人の方が熱く語られていました。まだまだみえない大きな壁が立ちはだかっている様にみえます。

なら歴史芸術文化村は、仏像などの修復を間近に見学できる事がとてもすばらしいです。

◎穏やかな秋らしい気温の中、まずは奈良県御所市にある水平社博物館見学とフィールドワークに参加しました。ガイドスタッフの方のとても分かりやすい説明を伺ってから水平社博物館の展示を見ることが出来てより興味深く見学することが出来ました。

リニューアルされた展示には、若い世代の方にも共感しやすいように漫画の一部分等を取り上げて説明している場所もあり創意工夫が感じられました。さらに2～3年前からやっ

と聞くようになった SDGs と水平社の理念に相通じるものがある事を知って驚きました。また、100年前の京都市公会堂での水平社創立の場面をファンタビューシアターで見ていると当時の方々の熱意や思いが伝わってきました。

次の訪問場所は天理市にこの春に開村した、なら歴史芸術文化村です。考古遺物や美術品等々の修復の様子を近くで見学出来てワクワクしました。交流にぎわい棟では農産物直売所があり奈良県産の食材を購入することが出来ました。

◎精華町庁舎よりバスで一時間半、奈良県御所市の水平社にて、地域青年達の立上げ活動時の苦勞話を現地の専属ガイドさんに聞いて歴史上、幾多の苦難と生活環境等による阻害が見られ、人として生まれ持つ普通の権利、生活、自由について改めて感じることになりました。

最近では【LGBTQ】自分自身の性的マイノリティは今日でこそ取り上げられ社会的に改善の兆しも見えますが、同胞差別撤廃の同和対策も国の特別措置が講じられ生活の安定や人間らしく生きられる環境改善が進みましたが、まだまだ普通に暮らせる難しさや色々な差別等の社会から抜け出すことが出来ません。

世の中の人々が子供たちの未来に向け【知識】【教養】【人を想う心】を持てるように社会教育委員としても活動の場を広げなければなりません。

◎まず、フィールドワークから、被差別部落の生まれは、特別な職業の方が住んだところではないかと考えられることである。柏原地域の場合「神武天皇社」の鬼門を守る「陰陽師」などその当時悪霊と対峙した人たちが元であると考えられている。次に、江戸時代、「ケガレ」とされる特別な職業（死にかかわる職業や皮革産業など）により、身分上の差別は受けていたが、経済的には比較的恵まれていたこと、明治に入り解放令により、一旦身分上の差別が無くなったかのようにされたが、「五万日の日のべの話」の伝承や依然、目に見える差別が残ったこと、地域によっては職業さえ奪われたことなど、水平社が結成されるまでの歴史的経過や実態について学んだ。さらに、水平社結成後の解放に向けた全国的な活動については、博物館内に詳しく説明されていた。部落差別についての法（同対法、地対財特法など）は2002年に完全に失効し、同和行政は区切りがついたが、それでも職業差別や結婚差別などが根強く残っているとされている。今後、同和問題に至るまでの歴史をさらに学びながら、その時代に生きた人たちの心情を尊び、不当な差別と闘い、根絶するよう努めることが、社会教育委員の大きな役割であると認識した。

◎「水平社博物館」

「人類の進歩と調和」がテーマの大阪万博から五十年が過ぎ二度目の大阪万博を迎えようとしています。物の進歩は凄まじく「ついていけない」と嘆く人も多くいますが、肝心の人の中身が進歩しきれていないことを痛感しました。自分より弱いものをいじめたり差

別することで自分を守ろうとするのでしょうか？現在もなお結婚問題に人権問題が付きま  
とっていることや、SNSの悪用が人権問題の解決を阻んでいることも嘆かわしく「伝え  
なければならぬ歴史」にあらためて触れた気がしました。

「なら歴史芸術文化村」

歴史とゆかりの深い土地で生活しているにもかかわらず、歴史的な文化・芸術に近距離  
で接する機会が少ないので新鮮でした。ホテル・道の駅があることでより多くの方を呼び  
込め利益を得ることができ設備の管理・運営にも利点のある場だと思いました。